新型コロナウイルス感染症（COVID19）対応ガイドライン

* + **『３密』**が同時に重なる場を避ける
1. 密閉：密閉空間　②密集：人の密集　③密接：近距離の会話
* **『共用』**を避ける

前提として…学校は３密と共有を通して学ぶ

学校教育活動は、リスクが高い

**【基本方針】**

* 学校集団感染の回避（感染の広さ）

地域の医療崩壊の回避

* 重症化リスク児童の感染回避（感染の深さ）

**【実践事項】**

**朝**

〔図１〕

■　■

■　■

■　■

■　■

■

■　■

■　■

■　■

■　■

■

■　■

■　■

■　■

■　■

■

1. ろうか（担当：担外）・教室（担当：担任）の窓を開ける。

基本は１日中開放。

1. 座席の前後左右の間隔を空ける。〔図１〕
2. 朝マラソンは、強制しない。

昇降口の混雑を避けるため、時間差で教室に戻る。（放送：教務）

1. 朝の会で出欠確認（通常の健康観察簿→保健室）**毎時間、授業終了時に特別健康観察を実施。**

担任が確認・記録。ドア付近につるす。養護教諭が巡回。**体調不良者は早退。**（※裏面）

移動教室には、児童が持参し、担当教員が健康観察を実施する。その後、学級に返却。

1. 手洗い、換気を確認する放送　(担当：教務)

**昼**

1. 休み時間は、外遊びの強制はしない。遊具は使用しない。朝同様、時間差で教室に戻る。
2. 給食前全員泡ハンドソープでの手洗い。給食当番はアルコール消毒を行う。

**前向き給食・会話は控える。　※配膳・片付け方法は本日シミュレーション研修実施。検討・改善**

1. 掃除時間は、身の回りの整理整頓、準備時間とする。下校前に児童がいすを机に上げる。

当面は、トイレ・特別教室の清掃は児童にはさせない。PTAトイレ清掃ボランティアを募る。

**放課後**

1. 放課後、担任がほうきで掃く。
2. 施設消毒　・手すり　・蛇口　・トイレ

**【その他】**

* + 授業形態・内容の見直し　　・共用（図書・ボール・教材など）物品の使用見直し
	+ 固形石鹸・トイレットペーパーは学年主任が管理。（保管場所：北１F清掃用具庫）
	+ 早退に関わる対応の変更：**体調不良の訴えは、「早退」**とする。
		- 心理的背景による体調不良も含め、軽度のものでも早退になるという事を家庭へ周知。

早退の準備を全て整え、**早退待機室**に向かわせる。検温を行う。

３７．５℃以上の発熱か、急激な悪化が見られる児童は救急搬送を念頭に**保健室**へ。

* + 保健室の機能の維持：**学級救急箱で対応。**クールダウンや渋りに対しても学年で対応。

→　**道具は教員が管理。児童には手当をやらせない。**

頭部外傷、歩行が困難なけがなどは、保健室のベッド反対側で処置。接触させない。

★　教職員の健康観察・検温　→　継続　　いつでも提示できるように、記録を必ずつける。

　★　児童の登校前健康観察配布・検温（３７℃以上、自覚症状ありは『出席停止』とする。）

　　　家庭保管。提出・点検は行わない。（負担軽減）

≪体調不良児童の早退フローチャート≫

毎時間の健康観察

異常あり

早退（自宅療養）

**早退待機室**

中庭会議室　（検温をして、３７．５℃未満はこの部屋で待機）

早退連絡　：　担任　　　／　　　検温・見届け　：　　　※担当表を作成

≪必要物品≫

マスク・実験用ゴーグル・体温計（２本）・アルコール消毒・ゴミ袋・来室記録表

検温　３７．５℃以上

症状の悪化（特に意識・呼吸注意）

**保健室**

**経過観察・（救急搬送も念頭に）**

* 管理職に報告・相談。保健所等の連絡は指示を仰ぐ。
* 救急隊に感染症の疑いを報告。
* 使用した施設、物品の消毒
* 時系列に記録